

しても武家の間に禪宗が盛んに行はれて禪寺が多く建られました封建時代になつても諸侯は領土内に城を建きこりてを設けるなど經營して今日も多くその遺蹟を見る理であります。

かういふ條件の上に立つて我國は全然獨特の藝術を生じ所謂日本趣味として世界に類例なき特色を發揮致しました日本建築は實に我美術の寶であつて又日本美術の總合的美術品であります如何なる國の美術と雖も之が追従を許さないのでありますこの建築に現れたる民族の活動力は獨り建築の上のみに止まらず總ての文化に於ても同様の力を發揮してゐる事に無限の興味と勇氣とを感ずるのであります、我國將來の文化はかくの如くにして種々なる特色を總合して更に獨創的能力を發揮し世界文明の精華を吸收する事にあるかと存じます、我々は日本建築を研究しながら今更のやうに此事を感じまして我等の責任の大なる事を思ふのであります。

### 精神的教育 (評論)

文科一部二年 渡邊 カツ

我が國維新以前中人以上儒に入らざるはなく中人以下佛に趨かざるはなく三千餘萬の民大低一個の信條を有し殆ど一日も精神の修養を怠らざりしに維新以來經籍影を藏め佛寺頽敗し生乳生水の肉躰に害あることを教ふる母はあれどもいかゞはしき新聞小説の精神を毒することを悔ゆる父はあらざるなり少年の喫烟を禁ずる法律は存すれども一個の人格養成を目的とする覺舎を見るによしなきを如何にせん故に市上に一瓶の敗水を賣るものなく床下に一簣の塵を留むる家なき一方にも新聞に小説に新著に演説に異端邪說横行闊歩してつひに憚るところなき世の有様とはなれりあゝ國民の肉躰は乳母や日傘に保護せられてその精神は猛獸毒蛇の中に棄てられたるか且つや世間の秩序一變してより士農工商必すしも昔日の種姓を論せず大羊牛馬を一罅中に争はしめ富貴その取るに任せてより人民は總立となり世は全く才能技藝の戰場とはなりしなりかくして人民は人を排して進

み弱きを併せて富めるの輩に移り社會の風尚甚しく野卑に流れたり今や弱肉強食の世となれり國民の健康を増進せしめ其の技藝を上達せしむることもとより邦家存立上の一要件たるべけれどこゝろみにこれを日清日露の國難に見るもわか彼の大敵に勝利を得たる所以のものは決して物質的文明の彼に勝れたるに因れるにはあらざりき却つて纔に軍隊の間にのみ殘存せる我が武士道に基づけることは争ふべからざる事實なりき然るをわれらを以て現社會を察すれば只管藝術の發達にのみ心を盡す輩はあれども精神界の事にいたりてはふかく憂ふるに足らずとなすものゝ如しあゝ羅馬はかくの如くにして滅び希臘はまたかくの如くにして衰へたるにあらずや、我邦近年の文明は大低西洋諸國を宗とす試みにこれらの國々見れば所謂文明國中耶蘇教を以て人道の標準とし國民道德の基礎をこれに置かざるものはなし故に中人以上の家一冊の聖書を藏せざるなきこと恰も維新以前我が中人以上一冊の論語を藏せざるなかりしと一致せりまた毎週集會して神を祈り罪を悔い地方にありては旅舎の客室毎に必ず一部の聖書を備ふるを見る

甚しきを一週一日の安息日には舟車を止むるありまた白耳義の如きは郵便を廢しても之に従事するものをして精神の修養を怠らざらしめんとし彼の有名なる劍橋大學の如きは紳士の養成を以て自ら標榜せり實にうるはしきことならずやこれによつてこれを觀れば彼列強の精神衛生に注意せること決して肉躰のそれにおとらざることを知るべしかくてこそ國民の精神はいよゝ堅實となり國家はますゝ發展するにあらざるべきか思ふに精神的文明の力は物質的文明の力に歩をゆづらぬこと明白なり否よき精神の支配によらずしては物質的文明の眞價はあらはれざるなり誠に精神は凡てのもの基礎にして凡てのものゝ支配者なればなり然るにわが國現今の状態や如何即ち國民道德はすでに腐敗の極點に達し今や少しく目さめんとしつゝありあゝこの時誰か力よく戸を開いてかゝやける光に浴せしめん者ぞいふまでもなくわれら教育者の力なりこの際教育者は自覺と自任とを以て社會の先覺者はた先導者とならざるべからず思ふにわれらも他日その任にあたるものなればやがては國民教化の一部を掌中ににぎるの時ある



べしあゝ不肖のわれらその任の大にして重なるに欣々然として天に感謝の意を表せざらんやしからばわれらは如何にしてこの任を全くし得んかそれいふまでもなく精神修養を第一義とせざるべからず今や社會の風潮は精神の修養を等閑に附せりかくの如くなる所以は勿論單一の原因に基くにはあらざるべけれども教育者に其の人の乏しきことまた一大原因たるをまぬかれず思ふに當今の教育は知識開發主義に偏すこれを昔日の精神尊重主義の教育に比すれば或る意味に於て進歩せしが如くなれどもかへりて精神の退歩を見たるにあらざるかなしむべし根柢の力よりはりし草木はその天分を全うするの難きを教育者にその人を得ざるは時代の然らしむる所なりなるとなれば維新以後俄に西歐文明の輸入せらるゝや甚しく學問の範圍を擴張ししかも短時間をもて修さめざるべからざる故に維新以前の如く漢學のみにしてその深奥を極め得たりし時代とは其の勞苦に於て固より比す可らずこれ方今教育者の淺薄にして價値なきをまぬかれざる所以なりされどわれらはたゞ時の勢に屈してそのなりゆくまゝにしたがふは甚だいさぎよ

しとせざるところなり青淵百話に曰く「現代をみるに學問は右から左へ口移しにするといふ有様であるが教育の實はこんことでは擧るものでないと思ふ廣くなれば勢ひ雜駁になることは免れぬのみならず彼等教員に人の師表となるといふ精神を缺いて來ることが大いなる缺點ではあるまいか生活のために教育者となることが異議がないとしても教育者を以て任する位の人なら少くとも學識に伴なふ人格を存せねばならぬことでそれでこそ教育の本旨に添ふところの訓導者と稱することが出来る然るに教育者たるものがままた學問の切賣をする精神的教育に關しては殆んど何等關知する所なきものゝ如くなるにいたつて弊習も亦甚しいと言はねばならぬ「源濁れば未清ます」といふ古言の如くかゝる教師から感化薰陶された生徒こそ災難でこんな風では善良の人物が出來る筈がないと思ふ」と然りわれらもまた常にこの感をいだけり實に現代の教師は（主に小中學校の）殆どかゝる有様なれば彼の尊き精神的共鳴師弟の感化の如きは或は消失せられざりしやどうたがはる見よ師弟は恰も路傍の人の如く大道に行き逢ふも互に顔

を外向け通る如きあさましき有様の生じ來るをその罪何れにありやわれはこれを教師其の人に責めん何となれば生活のために學問を切り賣りにし且そのいふどころ皆空言にすぎずかくて其の人の腦裏は劣等なる感情につまられたるをもつて其惡念は微妙なる精神的交通作用により天真爛漫清淨無垢花の如き兒童の心を癒えざるべう汚すにはあらざるかしかれども教師も人なり等しく神性を有する人なりたごへ小人なりと雖もわが教へ子に惡人なれかしと希望するものはなかるべし然るを尙あしき結果に落入るは何ぞ其の人やわれに望むを忘れたればなりあゝわれ人たらず如何でか人をつくるを得んそれ教師その人にして身に修養の實なくば薰陶の效は永へに擧げ得ざるなり教育界に於ける一大恨事たる學校騒動の如きはその弊なり小なくも生徒に學友視せらるゝ如きはよろこぶべきことにあらず斯くて教師に一の威嚴なく生徒はこれに服従することを知らざれば如何に教授法を考察すとも斷じて教育の理想に達し得ざるなりわれらは兒童の心のよはき可動性なるを信ずるとともに教師にしてけ高き人格を有し兒童に對するに

母の愛父の威を以てせば教育の效果もはたして偉大なるものあることを信するに難からず何事も新必しも善ならず舊かならずしも惡ならずこゝにわれらは昔時の教育者の精神的にしてしかも師弟の情誼のあつかりしことを述べわが説の必ずしも非ならざるを證せん世界の聖孔夫子は弟子顔回の世を去りし時噫天喪予天喪予と哭し給ひまた門人厚く之葬りしとき曰く回也視予猶父也。予不得視猶予也云々と嘆じ給ひしにあらすやまたわが吉田松陰は松下村塾彼の矮にして陋なる松下村塾に於てわづか二箇年の間に五人の大臣を出せり伊藤博文はその一人なり博文かつて其徳をたゞへて『道徳文章叙彞倫。精忠大節感明神。如今廊廟棟梁器。多是松門受教人』と誠にいづれの世にても教育の効果をあげ教育界に永世したる人はいづれか精神的教育者ならざるはなからむ彼のペスタロッチを見よ彼は常に『予はたゞ薄弱なる一老翁のみ余が知識には無量の欠點あり且つ比較的の小なり然れども唯萬事に於て余が意志の余が利己心のために支配せられざるは恐らくは予が唯一の特質ならんか』といはれたりまた彼の書信中



に『余の心は兒童の上により彼等の幸福は余の幸福にして彼等の喜は亦余の喜なり……余は朝夕常に彼等と共にあり彼等の心身の慰藉は一として余の手を経ざるものなく凡ての補助凡ての教育一として直接に余の手を下したるものならざるはなし……余は常に彼等と共に泣き彼等と共に笑ひ食は相推し飲は相分つ彼等は世界を離れスタンツを離れて余と共にあり余また一人の友人なく家僕なく唯彼等と共にあり彼等の健康なる時は余はその間に交りて談笑し病める時はその側を離れずして看護にあたる朝は最も早く起き夜は最も遅く彼等の間に眠りその眠り終るまで祈り且教へたりし遂に彼等は余に不正あるを感ずるも之が爲に却て益、余を愛するにいたれり』あゝかれは愛の化身なる精神的教育者にはあらざりしか教育界千古の偉人にはあらざるかかゝる精神的教育者によりてこそ眞の人物はつくらるゝなれすなはちかゝる人物は永へに生きわれらるゝ感化し導くにはあらざるかあゝ精神的教育者は千歳に生き得る理想の人をつくる神なりと呼ぶもすぎたる言にはあらざるべし彼の山鹿素行の感化は四十七義士の永世とな

り吉田松蔭の感化となりかくしてつひに乃木大將の永世を見たり思はざるべけんや。  
今やわが教育者は舊來の弊に感じ自ら覺れるもの漸く數をまし來れり願くはわれらが世に出でむころはわれが道を行ふに易からんことを

### 都市形式の研究(講演)

文科二部四年

都市の形式について申しますに當りまして先づ人類が都市を經營いたします前にさかのほり少し申したいと思ひます、凡そ人類は次第に進歩するに従つて狩獵民または遊牧民の生活状態から一步進んで簡易な農業を營む様になり次第に發達して正式農業をなす様に移りゆくので御座いますが農業をなす様になりますと農業の性質から土着する必要が起つてくるので御座います土着と申しますと家屋を造り一定の住所に永住する事をいふのであります但其土着の初めは三々五々只群をなして集るにすぎませんので所謂散在地をなすので御座います其年月の経過と人口の増加とに従ひまして其等散在地相互の間に

交通が起り次第に道路が出来て村落をなすのであります村の形は山や川の自然地理的影響によりまして其形はそれぞれ異なるので御座います最普通なものは道路の兩側に家がならぶ形式即ち街村となるのであります、それが次第に發達して道路が縦横に通じ人家が多くなりびます時市街地となるのでありますそれがそれまでには色々な影響で左右せられまして一様な發達をいたすものではありません。其主なるものを大別して自然地理的影響と人文地理的影響との二つに分つて申しあげます。

#### A 自然地理的影響

氣候が溫和で其上に建築用の材木石材等に富み土地が肥沃であるといふ事は住所選定の諸條件でありますけれども亞細亞内地のステップ地方や沙漠地方では斯様な條件を備へて居りませんので此處に住む人は遊牧の民であつて革張りの天幕を以て住家にかへ水草を追つて轉々するので其住所も永久固定のものになる事が出来ません又極地方へ行く時は水が最も便利な建築材となつてエスキモーは此水の家に住んで居るのであります但住所選定には何不足もない温

帯地方におきましても山地であるとか海邊であるとか又は降水量の多少等種々の關係から集落の形もいろいろのものが出来るのでございます。

#### B 人文地理的影響

其土地の種族の風俗習慣の上から又各種獨特の趣味の上からいろいろの形のものが出るのであります且社會的方面政治的の方面から考へると之等自動的の變化ばかりでなく更に他動的の原因によつて都市の形に種々な影響を及ぼすものであります例へば近傍の地に優等な種族が居住して居ります時は其種族が開化を傳へるので市區の制も之に倣つて幾分變つてくるのであります或は其等優等種族に強迫されて其土地を侵される憂ひもあるので自ら防禦するといふ考も起る爲に生活に便利な地をすて、崖の上とか谷の間とかに市邑を營むといふ事になるので御座います。更にまた城砦を設けて市邑を保護するといふ様な事もするのであります。市邑の形は之等自然人事兩方面の影響をうけて各地特有の形をなす様になつたのでありますそれで先づ日本民族の經營した都市の形式に就て考へて見たいと思ひます。